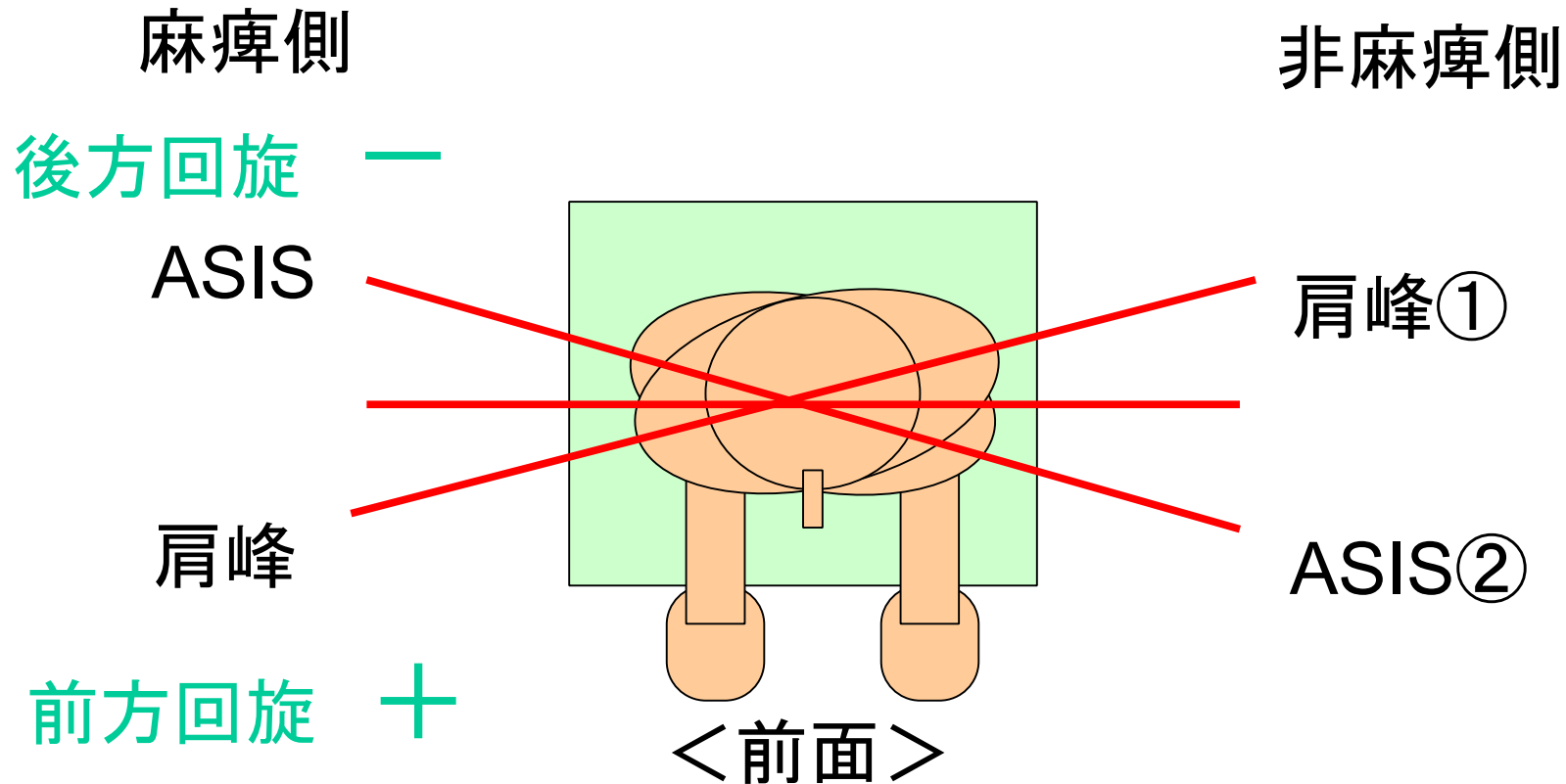


それでは・・・

体幹の回旋の相違により、  
どんな違いがあるんだろう？

# テスト 3

- 体幹の回旋



①上部体幹の回旋 ②下部体幹の回旋

それぞれ椅子前面に平行な線との成す角度で計測

# 【体幹の回旋のタイプ分類】

AA群(n=38): 上・下部体幹が前方回旋

AP群(n=20): 上部体幹が前方回旋—下部体幹が後方回旋

PA群(n=18): 上部体幹が後方回旋—下部体幹が前方回旋

PP群(n=24): 上・下部体幹が後方回旋

(麻痺側が)

A: 前方回旋

P: 後方回旋

## < 結果 >

(1) AA群－AP群間

⇒ なし

(2) AA群－PA群間

⇒ 非麻痺側・他動・股関節屈曲

(3) AA群－PP群間

⇒ 非麻痺側・他動・股関節内転

(4) AP群－PA群間

⇒ なし

(5) AP群－PP群間

⇒ 体軸の変位

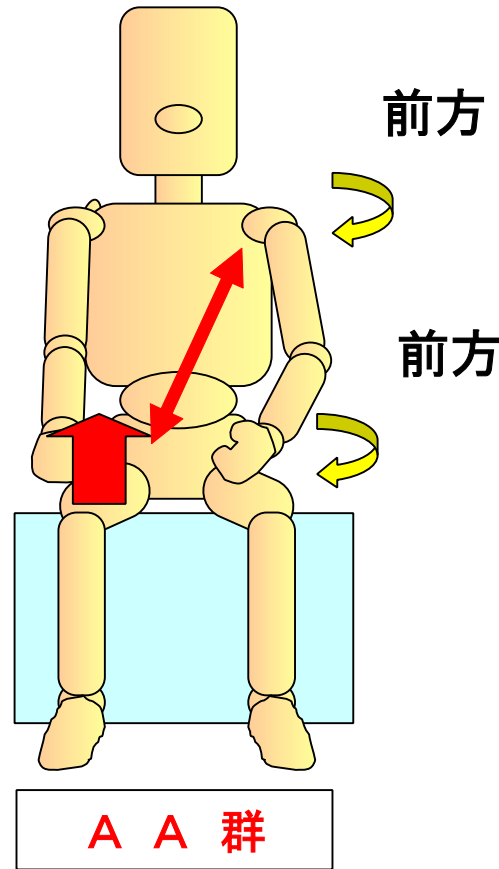
(6) PA群－PP群間

⇒ 非麻痺側・他動・股関節内転

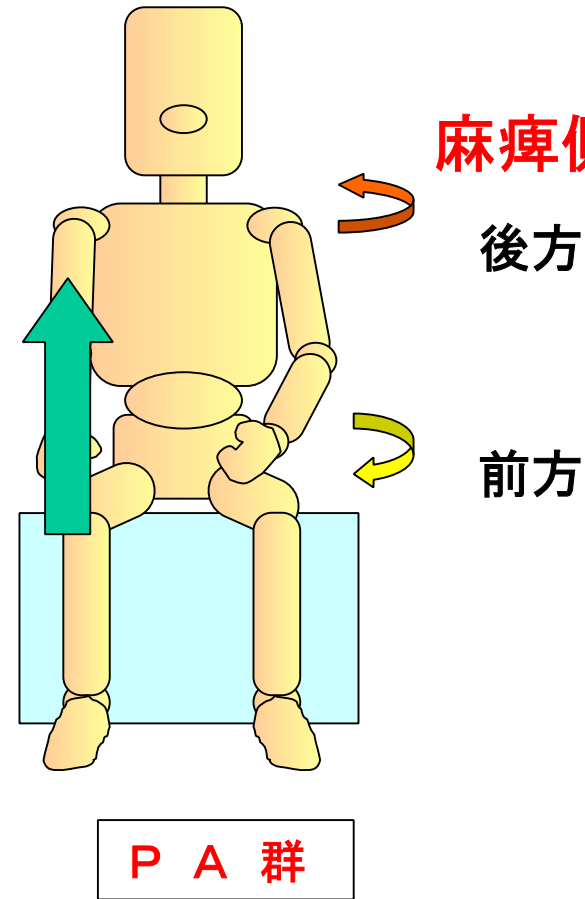
# 体幹の回旋での比較

＜AA群－PA群間＞

非麻痺側



麻痺側

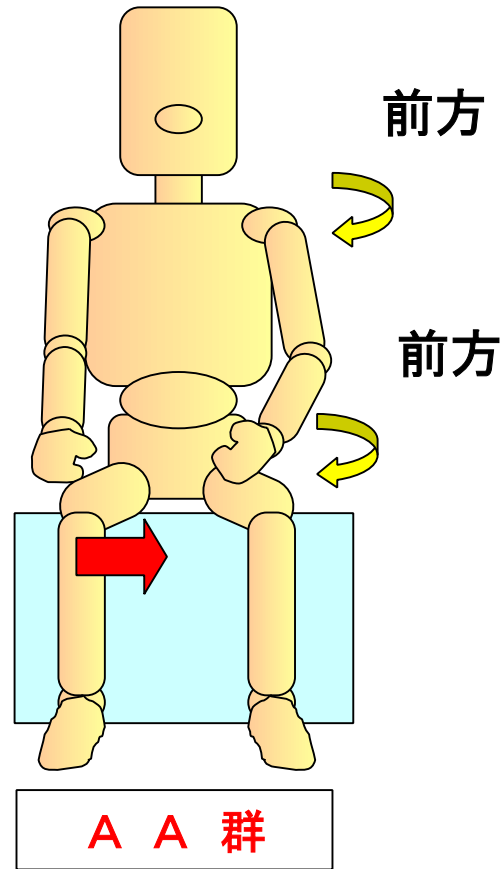


- 股関節屈曲に抗する高緊張による制限が、上部体幹の回旋に影響

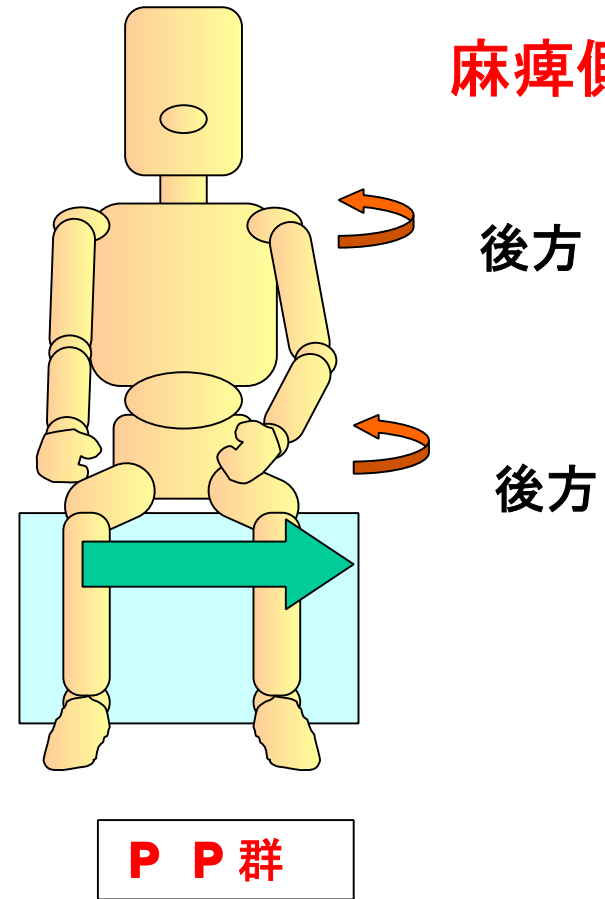
# 体幹の回旋での比較

<AA群-PP群間>

非麻痺側



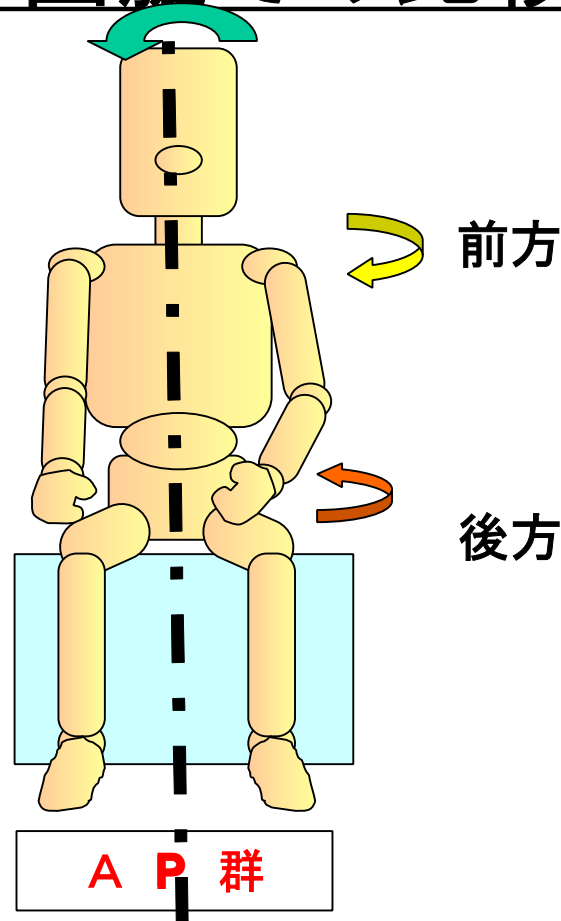
麻痺側



●非麻痺側・股関節内転に抗する制限因子に影響

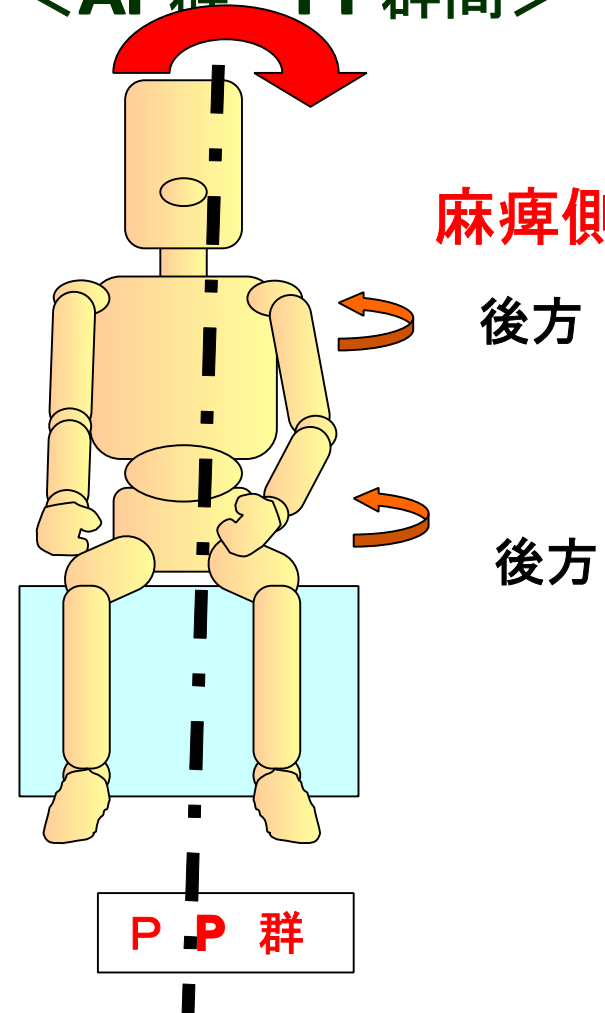
# 体幹の回旋での比較

非麻痺側



<AP群-PP群間>

麻痺側

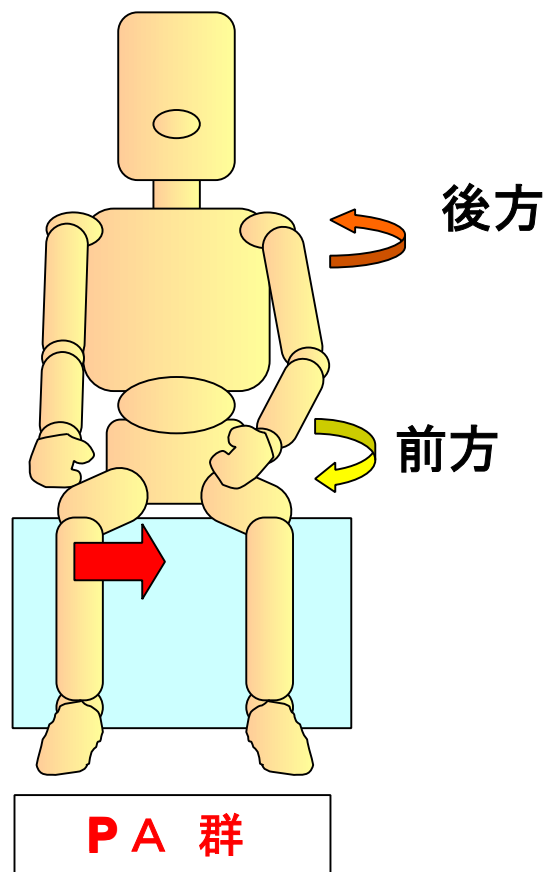


●体軸の変位の程度により影響する

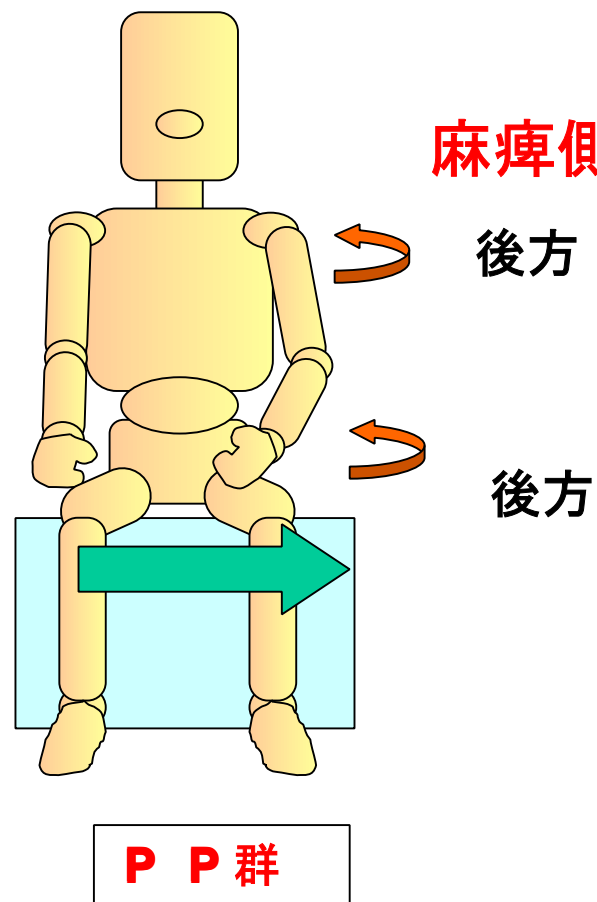
# 体幹の回旋での比較

<PA群-PP群間>

非麻痺側



麻痺側



●非麻痺側・股関節内転に抗する制限因子に影響



## まとめ

### 体幹の回旋の相違による座位姿勢の特徴

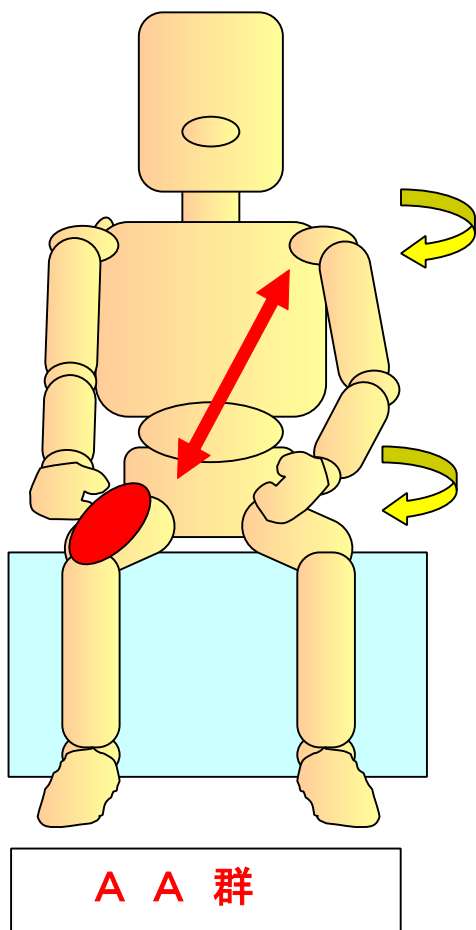
体幹の回旋や捻れを作り出している要因は・・・

体軸の変位と

非麻痺側・股関節における屈曲，内転に抗

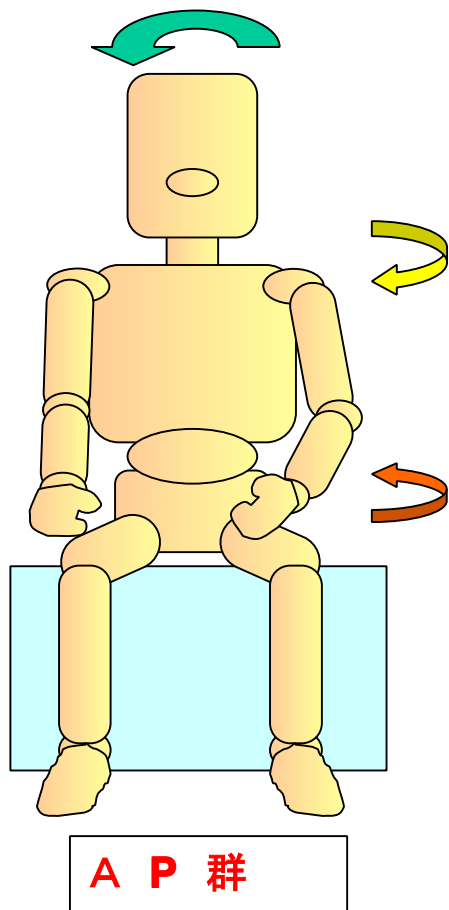
する高緊張に由来する制限因子による

## AA群 ひとくちメモ



非麻痺側下肢での下方および内転方向への押しつけにより、麻痺側上下部体幹を前方回旋させ送り出すかたちをとる。

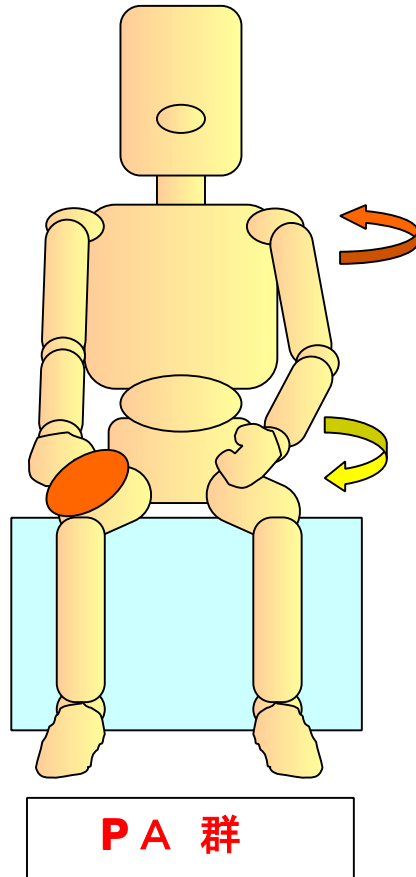
## AP群 ひとくちメモ



麻痺側下部体幹が後方回旋しているため、体軸を非麻痺側へ移動させ、麻痺側上部体幹を前方へ回旋させることで安定を得ている。

麻痺側下部体幹は後方回旋しているため非麻痺側下肢外側部での指示などの対応は少ない

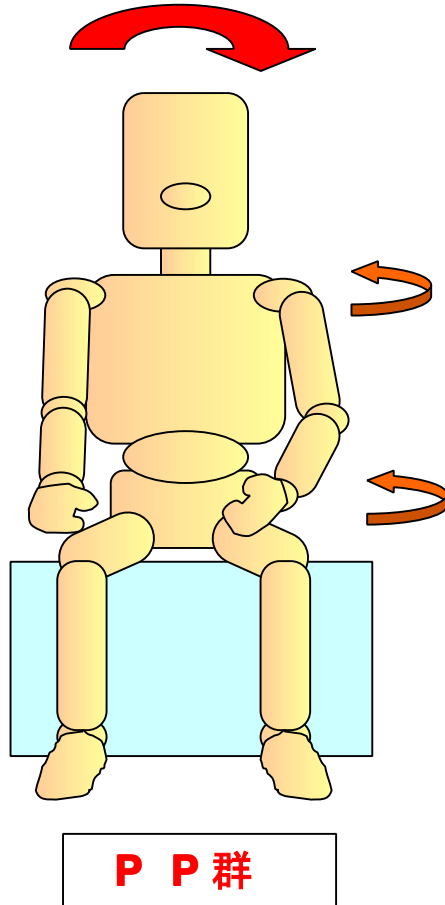
## PA群 ひとくちメモ



非麻痺側下肢外側部に緊張を高めて、麻痺側下部体幹を前方回旋させている。

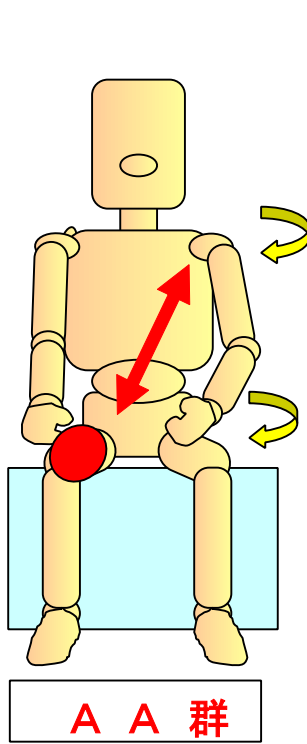
しかし、これは上部体幹の前方回旋まで及ばない。

## PP群 ひとくちメモ

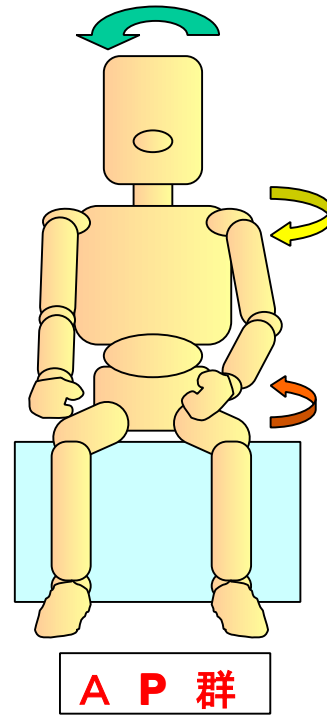


体軸が麻痺側へ変位するとともに、それを非麻痺側股関節内転位にて対応しようとしている。

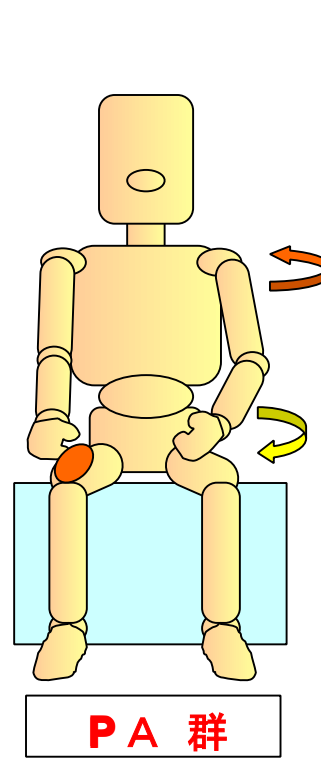
# 体幹の回旋のタイプによる身体的特徴



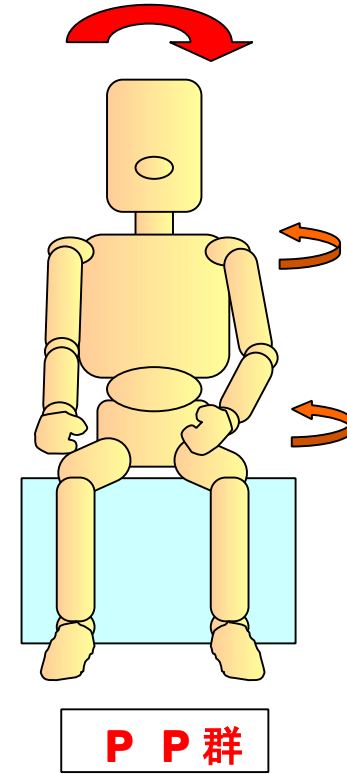
↑  
伸展と外転筋  
での固定



↑  
非麻痺側  
へ傾斜



↑  
外転筋での  
固定



↑  
麻痺側へ  
傾斜